



毛の話

株式会社美濃佐商店
渡辺 義秋 (第2班)

ミノサの社長が毛の話なんて、また助平な話なのだろうと誤解されそうですが、今回の毛の話は材木屋の肩の毛のはなしです。

昔から材木屋は材木を肩で担ぐので、肩の皮膚が刺激されて、毛が生えて来ました。小生が材木屋に入った50年位前の頃は肩に毛が生えないと一人前じゃないと言われたものです。それどころか、「肩に毛が生えているうちは、まだまだ半人前だ。生えた毛が擦り切れてしまって無くならないと、一人前と言えない。」などと、脅かされたものです。

昔は材木屋連中で旅行に行き温泉に入り、洗い場に並んで座ると、皆右肩に毛が生えているので、「この御一行様は何の団体なのだろうか?」と言われたなんて言う神話も有るくらいです。

小生も材木屋になって50年。若い頃は結構担いだので、右肩には毛が生えています。こうなるのだったら、頭で材木を担いでいたら、ハゲにならなかったのにと後悔しています。肩で材木を担いで商売にハゲんだから、ハゲになったと自分を慰めています。

それにしてもなぜ脇の下には毛が生えているのでしょうか?

なんて段々、話が怪しくなって来るのでこの辺でお仕舞にしたいと思います。



東京木材問屋協同組合 20年のあゆみより抜粋